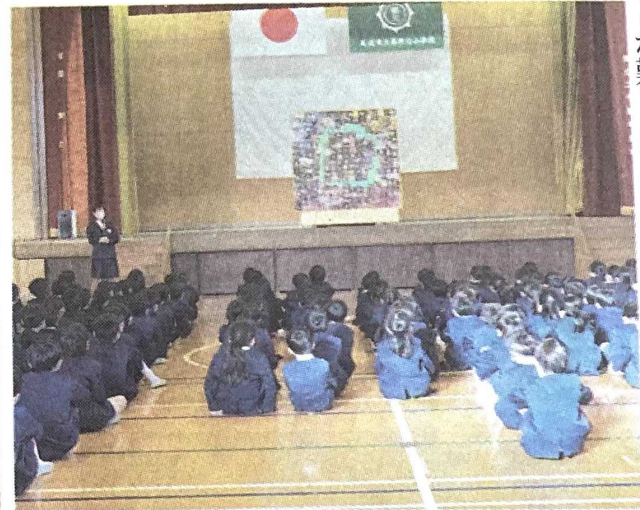


## 栗原北小、チョークアートで思い出作り 児童と教職員258名で合作

尾道市立栗原北小学校(石原政信校長)は18日、向東在住のチョークアート作家である大原郁香さん指導のもと、全校児童と教職員が協力して作った絵パネルのお披露目式を開いた。コロナ禍で様々な学校行事を開くことが難しくなった中、6年生の女子児童が思い出づくりにみんなで協力してできるものを作ると絵を描くことを提案し、始まった試み。



児童が思い出づくりにみんなで協力してできるものを作ると絵を描くことを提案し、始まった試み。

児童238名と教職員20名が、10センチ四方の黒い板に花などの絵を思い思いに描きつけ、一緒に並べて大きな絵パネルを協力して作成した。

制作に関わった大原さんは、同校の玄関ガラス扉に児童と一緒に絵を描くなど、以前から交流があり、今回は6年生に絵の描き方の指導したり、絵パネルの調整を手伝うなどした。

描き方を教わった6年生たちは、学年を跨いだ縦割り班で下級生にも描き方を教え、交流しながら絵を描いた。

全校児童が集まったお披露目式では、発起人の女子児童や大原さんがそれぞれ挨拶をした。

児童達は完成した絵を見て喜んでおり、全学年で共有できる素敵な思い出となった。

完成した絵パネルは、同校の階段の踊り場に飾られている。【大野明穂】

